

立命館經濟學

第二十四卷 第三号

昭和五十年八月

内 容

論 說

巨大企業分析と「生産の集積」概念の展開……………坂 本 和 一 1

研 究

19世紀末「大不況期」の過剰資本と生産の集積……………山 本 幹 夫 35
——ドイツ石炭・鉄鋼業を事例として——

重化学工業資本の強蓄積と租税政策……………藤 岡 純 一 67

翻 訳

バルグス「世界市場と農業恐慌」白……………大 藪 輝 雄 92
鈴 木 敏 正

共同研究室…………… 116

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学 第二十四卷・第一号

論 説

実体分布と度数分布……………関 弥三郎

P. A. Samuelson の

Marx 批判について……………甲 賀 光 秀

翻 訳

宮效聞他編著『社会主義企業管理』…小 野 進

—宮效聞等編写 △談談社会主義

企業管理▽—

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第二十四卷・第二号

論 説

無理をしない商法と経営……………足 立 政 男

—近世における京都の老舗の

家訓・店則から見て—

社会主義社会の過渡期的性格……………小 野 進

—毛沢東の社会主義政治経済学

への画期的な貢献—

翻 訳

復旦大学経済学部他編著

『社会主義政治経済学』……………小 野 進

海外留学記

EC 経済の最近の若干の問題点……………清 水 貞 俊

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会